

第3期大石田町まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版

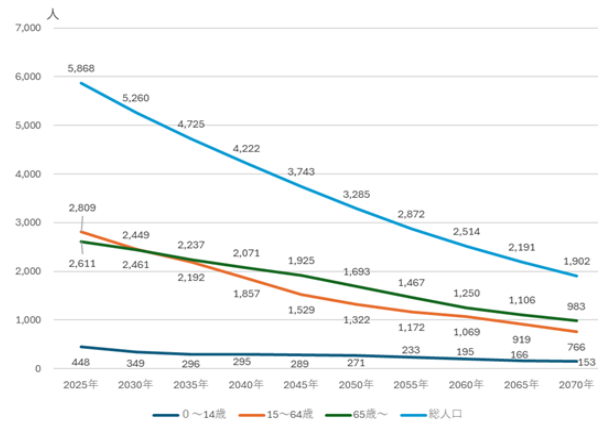
大石田町の将来人口はどうなりますか？

国立社会保障・人口問題研究所によると、現状(合計特殊出生率 約 1.0、社会移動約 -50 人)を続けていくと、2070 年に 1,600 人を下回る予想となっています。

この予想に対し、子育て支援策や経済対策(農家支援や起業支援、観光資源開発など)、町民の住みやすさ向上などの方策を実施することで、合計特殊出生率を 1.67 に向上し、社会移動については 20 歳代、30 歳代の転入を増加させ、2070 年に約 1,900 人を維持する推計ができます。

2070 年に 1,900 人程度

※合計特殊出生率 1.67 へ向上、若年層の転入増加の場合



地域経済をどのように豊かにしますか？

国による地方創生の考え方も人口減少社会を反映し、大きく転換しています。そのポイントは人口減少を前提としながら、

- ・若者や女性に選ばれる地方をつくる
 - ・豊かな生活環境
 - ・新しい日本・楽しい日本
- という 3 つの基本的な考え方で地方創生に取り組むことです。本町においても、こうした新しい考え方にに基づき、

- ・地域経済循環を大きくする
- ・本町の魅力を内外に発信し、関係人口を増やす
- ・町民の暮らしやすさを向上させる

という方針に基づいて総合戦略を策定します。



地方創生を目指す『大石田丸』三本の樫

1 壹の樫

町外から「ひと」「しごと」を届け、大石田の「技術」や「特産品」を運び関係性も結ぶ仕組みづくり

2 貳の樫

町の宝である子どもを安心して産み育て、愛着を持って住み続けたいという暮らしの環境づくり

3 参の樫

若者や女性が主役となり、時代を担う元気な町づくり

将来の人口予測と国の方針を受け、本町の現状と課題を認識し、町の目指す将来像『美しい自然と共生し、安心して暮らせるあたたかいまち』を実現するために、『大石田丸』三本の樫とともに、4つの基本目標と具体的な施策、また施策ごとに KPI(重要行政評価指標)を設定しました。また施策ごとに取組内容を設定し、それぞれについて PDCA サイクルに基づいてきめ細かく進捗状況を把握し、着実にまちづくりをすすめてまいります。

基本目標

1 町の強み・資源を活用して経済の好循環を生み出す

魅力的な資源を最大限に活かし、人の流れと資金の流れを生み出すことで、持続的な経済発展につなげる

2 関係人口を重視し、町内への人の流れをつくる

定住促進にこだわらず、人的交流を促進し、新しい人の流れをつくる

3 若い世代の希望をかなえ、人口流出を抑制する

結婚・出産・子育て支援を通し、若い世代の住みやすさを高める

4 安心・安全で住民のウェルビーイングを高める

生きがいをもって働ける町、安心して暮らし続けられる町を実現し、地域に暮らす人々が多様な豊かさを享受し続け、地域に誇りと愛着を持ち、ウェルビーイングを高める

具体的な施策

町内における起業への支援

町内企業・産業への支援

希望する就業への支援

6次産業化の推進

町内への移住の推進

町内への定住の推進

交流人口・関係人口の拡大

結婚・出産・子育ての切れ目のない

「住んでよし」「訪れてよし」の環境づくり

広域連携の推進

郷土愛の増進

社会基盤の整備

総合的な雪対策の強化

防災体制の強化

地元大学との連携強化

行政のデジタル化推進

主な KPI と目標値 (重要業績評価指標)

町支援による新規起業数 10 社

新規就農者数 10 人

町内企業の従業者数 1,800 人

6次産業化の取組事例数 3 件

制度を利用して移住した人 15 人

U ターンによる移住者 150 人

年間入込客数 55 万人

公的結婚支援サービス登録者数 10 人

総合型スポーツクラブ会員数 120 人

広域連携に係るプロジェクト数 45 件

公民館利用者数 15,000 人

主要道路及び河川工事件数 17 件

雪を活用した取組み件数 3 件

消防団員数 260 人

大学との連携事業数 5 件

行政手続きオンライン化件数 20 件